

生成AIを学びの相棒に！「生成AIガイドブック（児童生徒編）」を公開しました！

令和6年度に公開した「生成AI活用研修ガイドブック はじめよう！生成AI～教職員による授業・校務での活用～」は、多くの先生方に見ていただき、生成AIの活用に挑戦する教職員の皆様から好評をいただいております。そして、この度、児童生徒が生成AIを活用し学びを深めるために、令和8年3月31日に「生成AI活用研修ガイドブック はじめよう！生成AI～児童生徒による授業等での活用～」を公開しました。児童生徒たちにとって生成AIが日常のツールとなりつつある今、児童生徒が生成AIを上手に活用し、自らの学びを深めることができるような授業づくりに取り組んでみませんか？



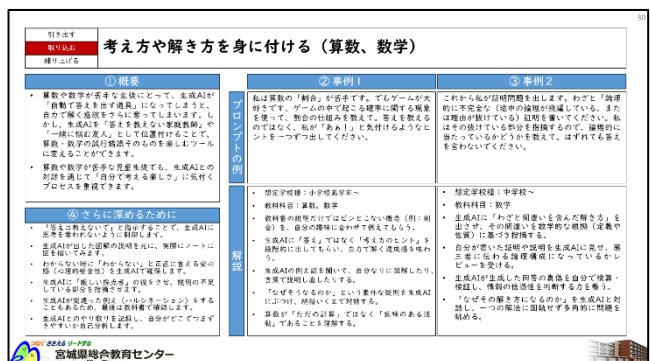
導入の不安を解消し、生成AIを活用した授業を実現する4つのステップ！

本ガイドブックは、教員を対象として、全4章で構成されています。児童生徒が生成AIを使いこなすための事前準備から、授業での具体的な活用事例までを網羅しており、生成AIを生かした授業づくりをサポートします。

第1章	準備をしよう	自治体のルールの確認、利用規約、保護者の同意など、導入前に確認すべき事項をチェックシート形式で解説
第2章	授業での活用に向けて	個人情報の保護、著作権の配慮、情報の真偽（ファクトチェック）など、実際の授業での活用に必要な知識を解説
第3章	生成AI活用事例集	生成AIを「伴走者や相談相手」として活用することを意識した33の活用事例を掲載
第4章	生成AIを活用した授業づくり	先生方自身が生成AIと対話し、資質・能力を育む授業案をゼロから組み立てる研修ワークを提案

豊富な事例で、児童生徒の主体的な学びを実現！

第3章の「生成AI活用事例集」は、生成AIを「答えを教えてくれるシステム」ではなく、児童生徒の学習を手助けしてくれる伴走者や相談相手として活用することを意識した活用事例を取り上げています。例えば、「算数・数学科」では、苦手な「割合」を趣味のゲームに例えてもらい、段階的なヒントで自力での解決を促す事例や、生成AIが書いた「不完全な証明」の誤りを指摘する対話を通して論理的思考を鍛える事例を掲載しています。正解を聞くのではなく、試行錯誤の過程を生成AIと共有することで、児童生徒が「自分で考える楽しさ」を味わいながら学びを深めていきます。



ガイドブックの活用事例集のページ

活用事例集の使い方のポイント

活用事例集には、小・中・高等学校・特別支援学校等の様々な教科等の事例を33例掲載しています。これらの事例を、先生方の目の前の子供たちの実態に合わせ、効果的に活用するための3つのポイントをご紹介します。

ポイント① 自分の 教科・科目で探す

まずはご自身の担当教科のページを開き、「生成AIにどんな役割を与えているか」に目を向けてみてください。単にプロンプトをコピーするのではなく、生成AIを「相談相手」にするのか「伴走者」にするのか、生成AIの役割を読み解くことで、授業づくりの幅が広がるはずです。

ポイント② 他の教科で探す

次に、ご自身の担当以外の教科のページを開いてください。生成AIとの対話の手法は、特定の教科に限らずあらゆる学習の場面で応用が可能です。「自分の教科ならどう使うか」という視点で、活用の仕方を考えてみましょう。新たな授業アイデアが広がるはずです。

ポイント③ 発達段階を 変えて見る

事例集は入門と発展の二段階で示しています。子供の実態に応じ、「入門と発展の間」や「発展の先」を考えながら授業のデザインを考えてください。使えそうな例が見つかったら周りの先生方と共有し、積極的に授業での実践に取り組んでいきましょう。

予測困難な時代だからこそ、私たち教員には「知識の伝達者」から、子供たちの深い学びに寄り添う「伴走者」としての役割が求められています。子供たちが失敗を恐れず生成AIと対話し、思考を深める姿を想像してみてください。本ガイドブックが、先生方と子供たちの学びを支える道標となれば幸いです。



生成AI活用研修ガイドブック
(児童生徒編)

「チョットもっと授業ナビ」で、子供たちの率直な意見を引き出す授業をつくろう

「チョットもっと授業ナビ」は、普段の授業での困りごとをICT活用で改善を図るストーリー仕立ての研修動画です。実践的なICTの操作演習も盛り込んでいます。研修動画は12本ありますので、月1回の研修や、会議後の隙間時間での操作演習など、各校の状況に合わせて柔軟に活用できます。その中から、今月は研修動画No.1をご紹介します。



「チョットもっと授業ナビ」

テーマ	研修動画No.1 「自分の意思を示そう(意思表示)」	
授業の 困りごと	賛成・反対など、子供たちに挙手をさせることがありますよね。そのとき、多数の意見に流されたり、進んで挙手できず、自信を持って意思表示できない子供たちを目にすることがよくあります。子供たちの率直な意見を引き出すためにはどうすればよいのでしょうか…。	 (えっ 賛成の人が多い？ わたしも賛成にしようかなー)
ICT活用で 改善	改善のために用いたのが、「オンラインアンケートフォーム」です。匿名での回答をさせることで、子供たちの心理的な安全性が高まり、率直な意見を出しやすくしています。さらに、他の人の考えと自分の考えを比較することで、自ら学びを深める「主体的な学び」へとつなげています。	 (これっていい その方が自分の考えを出しやすいわ)
演習	オンラインアンケートフォームの機能について学ぶ演習を設けています。回答を1回に制限する設定や、教員が個別の回答を確認する方法、回答用リンクの配布など、具体的な操作手順を解説しています。	 それでは操作を体験してみましょう！

(編集後記) 子供たちの学びを深めるために、私たち教員は教材や学習法等の研究に汗を流します。生成AIの活用についても、「使えない」と決め付けず、効果的な使い方を模索していきたいと思う今日この頃です。

[第51号担当 三浦]